

ええやんスシロー債  
発行登録追補目論見書

2023 年 12 月

株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

2023年12月

---

# 発行登録追補目論見書

---

株式会社 FOOD & LIFE COMPANIES

大阪府吹田市江坂町一丁目 22 番 2 号

**【表紙】**

【発行登録追補書類番号】 5-近畿1-1  
【提出書類】 発行登録追補書類  
【提出先】 近畿財務局長  
【提出日】 2023年12月8日  
【会社名】 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES  
【英訳名】 FOOD & LIFE COMPANIES LTD.  
【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 水留 浩一  
【本店の所在の場所】 大阪府吹田市江坂町一丁目22番2号  
【電話番号】 06(6368)1001  
【事務連絡者氏名】 執行役員 吉田 剛  
【最寄りの連絡場所】 大阪府吹田市江坂町一丁目22番2号  
【電話番号】 06(6368)1001  
【事務連絡者氏名】 執行役員 吉田 剛  
【発行登録の対象とした募集有価証券の種類】 社債  
【今回の募集金額】 12,000百万円  
【発行登録書の内容】

提出日	2023年2月27日
効力発生日	2023年3月15日
有効期限	2025年3月14日
発行登録番号	5-近畿1
発行予定額又は発行残高の上限(円)	発行予定額 25,000百万円

**【これまでの募集実績】**

(発行予定額を記載した場合)

番号	提出年月日	募集金額(円)	減額による訂正年月日	減額金額(円)
-	-	-	-	-
実績合計額(円)		なし (なし)	減額総額(円)	なし

(注) 実績合計額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額(下段( )書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき算出しております。

【残額】 (発行予定額-実績合計額-減額総額) 25,000百万円  
(25,000百万円)

(注) 残額は、券面総額又は振替社債の総額の合計額(下段( )書きは、発行価額の総額の合計額)に基づき算出しております。

(発行残高の上限を記載した場合)

該当事項はありません。

【残高】 (発行残高の上限-実績合計額+償還総額-減額総額) ー円

【安定操作に関する事項】 該当事項はありません。

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

# 目 次

	頁
第一部 【証券情報】 .....	1
第1 【募集要項】 .....	1
1 【新規発行社債(短期社債を除く。)】 .....	1
2 【社債の引受け及び社債管理の委託】 .....	4
3 【新規発行による手取金の使途】 .....	5
第2 【売出要項】 .....	5
第3 【第三者割当の場合の特記事項】 .....	5
第二部 【公開買付け又は株式交付に関する情報】 .....	6
第三部 【参照情報】 .....	6
第1 【参照書類】 .....	6
第2 【参照書類の補完情報】 .....	7
第3 【参照書類を縦覧に供している場所】 .....	13
第四部 【保証会社等の情報】 .....	13
・ 「参照方式」の利用適格要件を満たしていることを示す書面 .....	14
・ 事業内容の概要及び主要な経営指標等の推移 .....	15
・ 2023年9月期連結会計年度(2022年10月1日から2023年9月30日まで)の業績の概要 .....	19
・ 第9期事業年度(2022年10月1日から2023年9月30日まで)の業績の概要 .....	28

## 第一部 【証券情報】

### 第1 【募集要項】

#### 1 【新規発行社債（短期社債を除く。）】

銘柄	株式会社FOOD & LIFE COMPANIES第4回無担保社債（社債間限定同順位特約付）（愛称：ええやんスシロー債）
記名・無記名の別	—
券面総額又は振替社債の総額(円)	金12,000百万円
各社債の金額(円)	金100万円
発行価額の総額(円)	金12,000百万円
発行価格(円)	各社債の金額100円につき金100円
利率(%)	年1.062%
利払日	毎年6月20日および12月20日
利息支払の方法	1. 利息支払の方法および期限 (1) 本社債の利息は、払込期日の翌日から償還期日までこれをつけ、2024年6月20日を第1回の支払期日としてその日までの分を支払い、その後毎年6月20日および12月20日の2回に各々その日までの前半か年分を支払う。 (2) 利息を支払うべき日が銀行休業日にあたるときは、その前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 半年年に満たない期間につき利息を計算するときは、その半年間の日割をもってこれを計算する。 2. 利息の支払場所 別記（注）14. 「元利金の支払」記載のとおり。
償還期限	2028年12月20日
償還の方法	1. 償還金額 各社債の金額100円につき金100円 2. 償還の方法および期限 (1) 本社債の元金は、2028年12月20日にその総額（ただし、買入消却を行った場合は、買入消却された本社債の金額の合計額を差し引くものとする。）を償還する。 (2) 償還すべき日が銀行休業日にあたるときは、その前銀行営業日にこれを繰り上げる。 (3) 本社債の買入消却は、法令または別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に別途定められる場合を除き、払込期日の翌日以降いつでもこれを行うことができる。 3. 償還元金の支払場所 別記（注）14. 「元利金の支払」記載のとおり。
募集の方法	一般募集
申込証拠金(円)	各社債の金額100円につき金100円とし、払込期日に払込金に振替充当する。申込証拠金には利息をつけない。
申込期間	2023年12月11日から2023年12月19日まで
申込取扱場所	別項引受金融商品取引業者の本店および国内各支店
払込期日	2023年12月20日
振替機関	株式会社証券保管振替機構 東京都中央区日本橋兜町7番1号
担保	本社債には担保ならびに保証は付されておらず、また本社債のために特に留保されている資産はない。

財務上の特約(担保提供制限)	<p>1. 担保提供制限条項</p> <p>(1) 当社は、本社債発行後、本社債の未償還残高が存する限り、本社債の払込期日以降、当社が国内で既に発行した、または国内で今後発行する他の無担保社債のために担保提供（当社の資産に担保権を設定すること、当社の特定の資産につき担保権設定の予約をすることおよび当社の特定の資産につき当社の特定の債務以外の債務の担保に供しない旨を約することをいう。以下「担保提供」という。）する場合には、本社債のためにも担保付社債信託法に基づき同順位の担保権を設定する。</p> <p>(2) 本項(1)号に基づき設定した担保権が本社債を担保するに十分でない場合には、当社は本社債のために担保付社債信託法に基づき社債管理者が適当と認める担保権を設定する。</p> <p>2. 担保提供制限の例外</p> <p>他の無担保社債に対する当社の担保提供が次の各号のいずれかに該当するものと社債管理者が認めたときは、前項は適用されない。</p> <p>(1) 当社が、社債の償還のための減債基金の積立または償還準備資産の預託として、当社の所有する資産のうえに担保権を設定する場合。</p> <p>(2) 当社が、合併により担保権の設定されている被合併会社の資産を承継する場合または既に担保権の設定されている資産を取得する場合。</p>
財務上の特約(その他の条項)	<p>1. 担保付社債への切換</p> <p>(1) 当社は、社債管理者と協議のうえ、いつでも本社債のために担保付社債信託法に基づき、社債管理者が適当と認める担保権を設定することができる。</p> <p>(2) 前記「財務上の特約(担保提供制限)」欄第1項または本項(1)号により本社債のために担保権を設定する場合、当社は、直ちに登記その他必要な手続を完了し、かつ、その旨を担保付社債信託法第41条第4項の規定に準じて公告する。</p> <p>2. 担保提供制限に係る特約の解除</p> <p>当社が前記「財務上の特約(担保提供制限)」欄第1項または前項(1)号により本社債のために担保権を設定した場合には、以後前記「財務上の特約(担保提供制限)」欄第1項、同欄第2項および同(注)5.(2)は適用されない。</p>

(注) 1. 信用格付業者から提供され、もしくは閲覧に供された信用格付

本社債について、当社は株式会社日本格付研究所（以下「JCR」という。）から、A-（シングルAマイナス）の信用格付を2023年12月8日付で取得している。

JCRの信用格付は、格付対象となる債務について約定どおり履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。

JCRの信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、JCRの信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。JCRの信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。

JCRの信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、JCRの信用格付の付与に当たり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。

本社債の申込期間中に本社債に関してJCRが公表する情報へのリンク先は、JCRのホームページ(<https://www.jcr.co.jp/>)の「ニュースリリース」右端「一覧を見る」をクリックして表示される「ニュースリリース」(<https://www.jcr.co.jp/release/>)に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。

JCR：電話番号 03-3544-7013

## 2. 振替社債

- (1) 本社債は、社債、株式等の振替に関する法律（以下「社債等振替法」という。）の規定の適用を受け、別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って取り扱われるものとする。
- (2) 社債等振替法に従い本社債の社債権者が社債券の発行を請求することができる場合を除き、本社債にかかる社債券は発行されない。

### 3. 期限の利益喪失

当社は、次の各場合には、本社債について期限の利益を喪失し、別記「利率」欄所定の利率で経過利息をつけて、ただちに本社債の総額を償還する。当社は期限の利益を喪失した場合、その旨を公告するものとする。

- (1) 当社が別記「利息支払の方法」欄第1項に定める利息の支払いを怠り、7日を経過してもこれを履行または解消することができないとき。
- (2) 当社が別記「財務上の特約（担保提供制限）」欄第1項の規定に違背したとき。
- (3) 当社が、本社債以外の社債について期限の利益を喪失し、または期限が到来してもその弁済をすることができないとき。
- (4) 当社が、社債を除く借入金債務について期限の利益を喪失したとき、または当社以外の社債もしくはその他の借入金債務に対して当社が行った保証債務について、履行義務が発生したにもかかわらず、その履行をしないとき。ただし、当該債務の合計額（邦貨換算後）が5億円を超えない場合は、この限りでない。
- (5) 当社が、破産手続開始、民事再生手続開始または会社更生手続開始の申立てをしたとき。
- (6) 当社が、破産手続開始、民事再生手続開始もしくは会社更生手続開始の決定、または特別清算開始の命令を受けたとき。
- (7) 当社の株主総会が解散（合併の場合を除く。）の決議をしたとき。
- (8) 当社が、その事業経営に不可欠な資産に対して差押、仮差押、仮処分もしくは担保権の実行としての競売（公売を含む。）の申立てを受け、または滞納処分としての差押がなされ、またはその他の事由により当社の信用を毀損する事実が生じた場合で、いずれの場合も社債管理者が本社債の存続を不適当と認めたとき。

### 4. 社債管理者に対する定期報告

- (1) 当社は、随時社債管理者にその事業の概況を報告し、また、毎事業年度の決算、剰余金の配当（会社法第454条第5項に定める中間配当を含む。）については書面をもって社債管理者にこれを通知する。当社が、会社法第441条第1項の定めに従い一定の日において臨時決算を行った場合も同様とする。ただし、当該通知については、当社が本（注）4. (2)に定める書類の提出を行った場合は当該通知を省略することができる。
- (2) 当社は、金融商品取引法に基づき作成する有価証券報告書、四半期報告書または半期報告書、確認書、内部統制報告書、臨時報告書ならびにそれら添付書類および訂正報告書について、金融商品取引法第27条の30の3に基づき電子開示手続の方法により提出を行う。

### 5. 社債管理者に対する通知

- (1) 当社は、本社債発行後、社債原簿に記載すべき事由が生じたときならびに変更が生じたときは、遅滞なく社債原簿にその旨の記載を行い、書面によりこれを社債管理者に通知する。
- (2) 当社は、当社が国内で既に発行した、または当社が国内で今後発行する他の社債に担保提供を行う場合には、遅滞なく書面によりその旨ならびにその債務額および担保物その他必要な事項を社債管理者に通知する。
- (3) 当社は、次の各場合には、あらかじめ書面により社債管理者に通知する。
  - ① 事業経営に不可欠な資産を譲渡または貸与しようとするとき。
  - ② 事業の全部または重要な事業の一部を休止または廃止しようとするとき。
  - ③ 資本金または準備金の額の減少、組織変更、合併、会社分割、株式交換または株式移転（いずれも会社法において定義され、または定められるものをいう。）をしようとするとき。

### 6. 社債管理者の調査権限

- (1) 社債管理者は、社債管理委託契約の定めに従い、その権限を行使し、義務を履行するために必要であると認めたときは、当社の事業、経理、帳簿書類等に関する報告書の提出を請求し、または自らこれらにつき調査することができる。
- (2) 本（注）6. (1)の場合で、社債管理者が当社の連結子会社および持分法適用会社の調査を行うときは、当社はこれに協力する。

### 7. 社債管理者の裁判上の権利行使

社債管理者は、社債権者集会の決議によらなければ、本社債の全部についてする訴訟行為または破産手続、再生手続、更生手続もしくは特別清算に関する手続に属する行為（会社法第705条第1項に掲げる行為を除く。）を行わない。

### 8. 債権者の異議手続における社債管理者の権限

社債管理者は、会社法第740条第2項本文の規定にかかわらず、同条第1項に定める異議の申立てに関し、社債権者集会の決議によらずに社債権者のために異議を述べることは行わない。

### 9. 社債管理者の義務

- (1) 社債管理者は、法令および社債管理委託契約の定めに従い、本社債の社債権者のために公平かつ誠実に社債の管理を行う。

- (2) 社債管理者は、法令および社債管理委託契約の定めに従い、本社債の社債権者のために善良なる管理者の注意をもって社債の管理を行う。
10. 社債管理者等の利益相反状況と公平誠実義務の関係
- (1) 社債管理者が当社に対し貸付等の債権を有する場合、社債管理者のグループ会社が信託勘定を通じ当社に対し債権を有する場合等、当該債権等と本社債は競合する可能性がある。
- (2) 本（注） 10. (1)の場合、社債管理者およびそのグループ会社は、本社債と当該競合する債権等が債権額に応じ同等に扱われるよう、合理的かつ適切な方法により保全行為や回収・充当行為を行う。
- (3) 本社債と当該競合する債権等の保全・回収・充当の割合が債権額に応じ同等である限り、社債管理者は公平誠実義務違反を問われないものとする。
- (4) 本（注） 10. (2)および本（注） 10. (3)については、社債管理者およびグループ会社による回収・充当方法が相殺の場合には原則として適用されない。
11. 社債管理者の辞任
- (1) 社債管理者は、以下に定める場合その他の正当な事由がある場合には、社債管理者の事務を承継する者（事前に当社の承認を得た者に限る。）を定めて辞任することができる。
- ① 社債管理者と本社債の社債権者との間で利益が相反するまたは利益が相反するおそれがある場合。
- ② 社債管理者が、社債管理者としての業務の全部または重要な業務の一部を休止または廃止しようとする場合。
- (2) 本（注） 11. (1)の場合には、当社ならびに辞任および承継する者は、遅滞なくかかる変更によって必要となる行為をしなければならない。
12. 社債権者に通知する場合の公告
- 本社債に関して社債権者に対し通知する場合の公告は、法令に別段の定めがあるものを除いては、当社の定款所定の電子公告または社債管理者が認めるその他の方法によりこれを行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、当社の定款所定の新聞紙ならびに東京都および大阪市において発行する各1種以上の新聞紙（ただし、重複するものがあるときおよび社債管理者が必要でないと認めた場合はこれを省略することができる。）にこれを掲載する。また、社債管理者が社債権者のために必要と認める場合には、社債管理者の定款所定の公告方法によりこれを行う。
13. 社債権者集会の招集
- (1) 本社債の社債権者集会は、本社債の種類（会社法第681条第1号に定める種類をいう。）の社債（以下「本種類の社債」という。）の社債権者により組織され、当社または社債管理者がこれを招集するものとし、社債権者集会の日の3週間前までに社債権者集会を招集する旨および会社法第719条各号に掲げる事項を公告する。
- (2) 本種類の社債の社債権者集会は、東京都においてこれを行う。
- (3) 本種類の社債の総額（償還済みの額を除き、当社が有する当該社債の金額の合計額は算入しない。）の10分の1以上にあたる本種類の社債を有する社債権者は、本種類の社債に関する社債等振替法第86条第3項に定める書面を社債管理者に提示したうえ、本種類の社債の社債権者集会の目的である事項および招集の理由を記載した書面を当社または社債管理者に提出して、本種類の社債の社債権者集会の招集を請求することができる。
14. 元利金の支払
- 本社債にかかる元利金は、社債等振替法および別記「振替機関」欄記載の振替機関の振替業にかかる業務規程等の規則に従って支払われる。
15. 発行代理人および支払代理人  
株式会社みずほ銀行

## 2 【社債の引受け及び社債管理の委託】

### (1) 【社債の引受け】

引受人の氏名又は名称	住所	引受金額 (百万円)	引受けの条件
SMB C日興証券株式会社	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号	7,000	1. 引受人は本社債の全額につき、連帯して買取引受を行う。 2. 本社債の引受手数料は各社債の金額100円につき金50銭とする。
大和証券株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目9番1号	2,500	
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	2,500	
計	—	12,000	—



(2) 【社債管理の委託】

社債管理者の名称	住所	委託の条件
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	本社債の管理委託手数料については、社債管理者に、期中において年間各社債の金額100円につき金2銭を支払うこととしている。

3 【新規発行による手取金の使途】

(1) 【新規発行による手取金の額】

払込金額の総額(百万円)	発行諸費用の概算額(百万円)	差引手取概算額(百万円)
12,000	75	11,925

(2) 【手取金の使途】

上記の差引手取概算額11,925百万円については、全額を2023年11月27日に第3回無担保社債を償還したことにより減少した手元資金に充当する予定であります。

第2 【売出要項】

該当事項はありません。

第3 【第三者割当の場合の特記事項】

該当事項はありません。

## 第二部 【公開買付け又は株式交付に関する情報】

該当事項はありません。

## 第三部 【参照情報】

### 第1 【参照書類】

会社の概況及び事業の概況等金融商品取引法第5条第1項第2号に掲げる事項については、以下に掲げる書類を参照すること。

#### 1 【有価証券報告書及びその添付書類】

事業年度 第8期（自 2021年10月1日 至 2022年9月30日）2022年12月23日近畿財務局長に提出

#### 2 【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第9期第1四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）2023年2月10日近畿財務局長に提出

#### 3 【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第9期第2四半期（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）2023年5月12日近畿財務局長に提出

#### 4 【四半期報告書又は半期報告書】

事業年度 第9期第3四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）2023年8月10日近畿財務局長に提出

#### 5 【臨時報告書】

1の有価証券報告書提出後、本発行登録追補書類提出日（2023年12月8日）までに、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書を2022年12月23日に近畿財務局長に提出

#### 6 【臨時報告書】

1の有価証券報告書提出後、本発行登録追補書類提出日（2023年12月8日）までに、金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書を2023年7月20日に近畿財務局長に提出

## 第2 【参照書類の補完情報】

以下の内容は、上記に掲げた参照書類であります有価証券報告書および四半期報告書（以下「有価証券報告書等」という。）に記載された「事業等のリスク」について、その全体を一括記載したものであります。なお、当該有価証券報告書等の提出日以後、本発行登録追補書類提出日（2023年12月8日）までの間において生じた変更箇所は下線で示しております。

当該有価証券報告書等には将来に関する事項が記載されておりますが、そのうち有価証券報告書の「第一部 企業情報 第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (4) 役員の報酬等」に記載の2023年9月期の業績予想については、2022年9月末時点の予想であり、当該業績予想が対象とする連結会計年度については、実績値を公表しております。

また、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (3) 目標とする経営指標」に記載された2022年9月期から2024年9月期を対象とした中期経営計画については、2023年11月10日付で新たに2023年10月から2026年9月までの3年間を対象とした新中期経営計画を公表し、刷新されております。

上記を除き、当該有価証券報告書等に記載された将来に関する事項については本発行登録追補書類提出日現在においてもその判断に変更はなく、また新たに記載する将来に関する事項もありません。なお、当該有価証券報告書等に記載された将来に関する事項については、その達成を保証するものではありません。

### 「事業等のリスク」

当社グループの財政状態及び経営成績等に影響を及ぼす可能性のあるリスクのうち、投資家の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のようなものがあります。また、必ずしも、そのようなリスク要因に該当しない事項につきましても、投資家の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資家に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。

なお、文中における将来に関する事項は、本発行登録追補書類提出日（2023年12月8日）現在において当社グループが判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

#### (1) 経済情勢の変化に伴うリスク

当社グループの店舗の大部分が日本国内に所在しているため、日本国内の景気変動や、消費税率引上げを含む政府の経済政策により、当社グループの事業、業績及び財政状態に影響を受ける可能性があります。特に、雇用水準等の変化による消費者の可処分所得の減少、回転寿司を含む外食又はテイクアウトへの支出の減少、為替相場の変動(主に円安)による鮮魚類の仕入コストの増加は、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (2) 回転寿司業界及び外食産業全体における競争に関するリスク

当社グループは、ファミリーレストラン、ファストフード店等の飲食店、個人経営及び家族経営の飲食店といった同業他社に加え、コンビニエンスストア、テイクアウト及び宅配サービス、スーパーマーケット等とも競合関係にあります。

当社グループの事業における最も重要な競争要因は、品質、味及び価格であると考えておりますが、立地、利便性及びアクセスのしやすさ、メニューの幅、当社グループのブランド認知度といった他の要因も重要であると考えております。当社グループは、寿司の品質及び味において競合他社との差別化を図ることに努めており、厳選した素材を調達し、新鮮で高品質な寿司を提供するために競合他社よりも若干高い売上原価率の維持に努めております。価格に基づく競争は、低価格回転寿司業界においては特に熾烈であり、当社グループは、寿司及びサイドメニューの質及び品数の豊富さの確保にも重点を置きつつ、競合他社の価格に対抗することが求められる可能性があります。

さらに、日本の人口減少により、日本のレストラン及び飲食業界の全体的な規模の成長が鈍化する可能性があり、それにより競争が激化する可能性があります。これに加えて、低価格回転寿司業界における寿司店数の増加は、1店舗当たりの来店客数の減少につながる可能性があり、当社グループは、低価格回転寿司業界の主要な競合他社とのみでなく、当社グループの店舗同士でも競合が生じる可能性があります。当社グループは、メニューの改善により、顧客に提供する価値及び平均客単価を上げることが、競争力を維持するために重要であると考えておりますが、競争力を維持することができなかった場合、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

競争において優位に立つためには、とりわけ、顧客を惹き付けるために広告宣伝費をかけ、マーケティングに経営資源を投入する必要があります。しかしながら、かかるマーケティング戦略は成功しない可能性があります。例えば、来店客数増加を目的とした新しい種類のメニューの導入や、季節限定、地域限定又は販促目的のキャンペーンは成功しない可能性があり、その場合、収益が減少する可能性があります。加えて、当社グループの競合他社の中には、当社グループに比べ、マーケティング及び広告宣伝活動により多くの資源を投入できる企業が存在する可能性があります。また、レストラン業界全体の統合又は当社グループの主要な競合他社がより大きなレストラン・チェーンに買収されることにより、かかる競合他社が当社グループよりも大きな購買力及びマーケティング力を得る可能性もあります。もし当社グループの競合他社がマーケティング及び広告宣伝活動への支出を当社グループに比べて増加させた場合、当社グループの来店客数の減少及び店舗当たり売上高の減少を招く可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 消費者の嗜好の変化に伴うリスク

当社グループが事業を展開するレストラン及び飲食サービス業界は、急速に変化する消費者の嗜好の影響を受けます。当社グループは、清潔で快適な回転寿司の形式により、質の高い接客とともに、新鮮で高品質な寿司を、魅力的な価格で提供することを使命としております。当社グループとしては、低価格回転寿司は幅広い顧客を支えられた安定的な市場であると考えておりますが、消費者の嗜好が当社グループの核となるスシローの店舗コンセプト又は当社グループが主に提供するメニューから乖離した場合、当社グループの事業及び当社グループの店舗の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、近時、当社グループは、顧客により多くの選択肢を提供すべく、寿司及び寿司以外のメニューをそれぞれ拡張しており、また、ピーク以外の時間帯における来店客数を増やすための方策を講じております。しかしながら、これらの取組みが、当社グループの業績に期待どおりの影響をもたらす保証はありません。

さらに、新型コロナウイルスの影響等により、来店型のビジネスモデルに対する消費者の嗜好に大きな変化が生じた場合、当社グループの事業及び当社グループの店舗の業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

当社グループが消費者の嗜好を正確に予測若しくは把握できない場合、又はそれに応えていくことができない場合、当社グループはマーケット・シェアを失う可能性があり、その結果、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (4) 食品の衛生管理に関するリスク

当社グループの基本メニューは、海産物をはじめとする各種食材によって構成されており、それらが適切に調達、保管、輸送、調理又は提供されなかった場合には、食の安全の問題が発生する可能性があります。食の安全は、当社グループの最重要事項であり、当社グループは、調達、保管、輸送、調理及び提供の全過程において、食品衛生法等の食の安全に関する適用法令を遵守し、食の安全に関連する事故のリスクを減少させるために多大な資源を投じております。また、当社グループの成長戦略による新たな取り組み、具体的な事例としてはセントラルキッチン  
の保有、フランチャイズ店舗の増加、テイクアウト等販売形態の多様化、海外展開によるリスクの変化に合わせて、管理体制の刷新を行っております。新型コロナウイルス等、食を介してではなく人を介して広がる感染症についても、新たなリスクと認識して対策を行っております。

しかしながら、当社グループの努力にもかかわらず、ノロウイルス、病原性大腸菌、黄色ブドウ球菌、腸炎ピブリオ菌、その他要因による食中毒事故や、食品表示法違反等による製品回収が発生する可能性を完全に排除することは困難です。当社グループが海産物等の原材料について第三者である供給業者に依存していることに伴い、当社グループがコントロールできない要因によって食中毒事故が発生するリスクがあります。また、予防策に対する耐性を持つ新たな若しくは異なる系統の疾病又は潜伏期間の長い疾病が発生する可能性があり、これによって、原因を迅速に特定し、改善措置をとることが困難となる可能性があります。加えて、新型コロナウイルス等重篤な感染症が発生した場合、当社グループが運営する施設内でお客様や従業員間に感染が拡がり、お客様及び従業員の安全が脅かされる可能性があります。

さらに、当社グループ又は飲食業界全体の食の安全性(食中毒、異物混入又は汚染の事故を含みます。)や感染症の拡大に関連する報道、風評又は苦情(根拠の有無を問いません。)により、当社グループに対する信用に悪影響が及ぶ可能性があり、その場合、当社グループの評判並びに事業、財政状態及び経営成績が重大な悪影響を受ける可能性があります。

当社グループは食中毒事故を対象とする保険に加入しておりますが、セントラルキッチン製造製品や原材料を原因とする食中毒事故、製品回収が発生した場合は、多数のお客様、販売業者、当社グループ店舗が影響を受ける可能性があります。また、当社グループの在庫の食品のうち一部に汚染があった場合、汚染が確認されていない部分についても在庫を処分することが必要となる可能性があります。これらの結果、一時的に膨大なコストがかかる可能性があります。

また、当社グループは食品衛生法をはじめとする数多くの健康及び食の安全に関する法的規制に服しております。当社グループが健康又は食の安全に関する法規制を遵守しなかった場合には、セントラルキッチンや店舗の営業許可の取消しや営業停止を含む行政処分や、罰金その他制裁を受ける可能性があります。また、健康及び食の安全に関連する法律、規則又は規制の導入または改定により、当社グループ全体の運営コストが増加する可能性があります。

### (5) 食材等の調達困難・価格高騰に伴うリスク

当社グループの事業の採算性を維持するためには、鮮魚類等の食材及び店舗用品の価格変化を正しく予測し、適切に対応することが重要となります。鮮魚類等の食材及び店舗用品の価格は、例えば、国内外のインフレーションの進行、天候不順・異常気象・自然災害の発生、新興国の継続的な成長による急激な需要の増加及び価格の高騰、物流上の障害、政府による輸入制限処置の発動、国際的な漁獲制限、取引先の倒産又は事故・災害による供給停止、食品衛生上の問題又は放射能汚染等による出荷制限・風評被害、為替の変動、増税等の影響を受けます。これらを当社グループがコントロールできず、予測の困難な要因により原材料等の調達不安や価格高騰が発生した場合には、売上原価率の上昇等により、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの使用する鮮魚、米その他の生鮮食材の価格が将来的に高騰し、当社グループがかかる価格の高騰を顧客に転嫁することができない場合には、当社グループの営業利益は減少します。さらに、日本におけるインフレーション又は為替相場の変動により、生鮮食材の調達コストがさらに上昇する可能性があります。これらのコスト上昇を効果的に調整することができない場合には、売上及び顧客基盤に影響を与えない方法により調達業務の効率化又はコスト上昇分の価格転嫁を行うとしても、当社グループの事業に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

店舗の水道光熱費(主に電気、水道及びガスの費用)の増加についても、増加費用を顧客に転嫁することができない場合又は転嫁しないことを選択した場合には、当社グループの営業利益に悪影響を及ぼす可能性があります。

円安や水産資源の減少等による食材の調達コスト、物流費、地代、人件費、設備・建設資材の高騰などの急激な環境の変化を受け、当社グループは国内の回転すし店において、2022年10月1日より商品販売価格の改定を行っております。この改定により、顧客が競合他社に流出してしまう場合や、消費行動を変えることとなる場合に、当社グループの来店客数の減少及び店舗当たり売上高の減少を招く可能性があり、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 中期経営計画に関するリスク

当社グループは2023年11月に「2024年9月期-2026年9月期 中期経営計画」(以下「中期経営計画」という。)を公表しており、①海外展開拡大、②国内事業強化、③サステナブル経営の重点課題への取り組み強化を軸とした成長戦略を掲げています。

しかしながら、当社グループがかかる目標を達成することができるか否かは、本項に記載された事項を含む多くのリスクや課題の影響を受けます。

中期経営計画を策定する中で、当社グループは様々な前提を置いております。このような前提は必ずしも正しいという保証はなく、仮にかかる前提が誤っていた場合であっても、当社グループはこれに対応して成長戦略又は事業運営を適時に変更することができない可能性があります。

#### (7) 新規出店計画に関するリスク

当社グループは、中期経営計画のもと、着実な新規出店の継続を通じた成長を目指しております。当社グループは、店舗開発チームを強化し、売上予測並びに店舗賃貸借及び立地の選択に係るシミュレーションを改善すること等により、店舗開発能力の向上に努めております。現時点において、当社グループの中心事業である国内のすし事業は、郊外の大規模店舗及び都市部への出店に加え、駅中・駅前ビルにおけるテイクアウト専門店などを中心に進めていく出店方針であります。

当社グループの出店に要する初期コストは出店場所により異なるため、想定される該店舗の営業利益ベースで投資回収ができなかった場合、また、出店余地の減少により出店計画どおり出店できなかった場合には、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。当社グループの将来の店舗業績は、当社グループとしてどのような新規市場及び店舗立地を選定するか、当社グループの店舗のコンセプトがどの程度当該市場において受け入れられるか、並びに当社グループの店舗のコンセプトをどう都市部に当てはめるか、といった様々な要因の影響を受けます。郊外エリア又は都市部に向けた当社グループの店舗のコンセプトは、当社グループのブランド認知度が低い地域の顧客に対しては十分に魅力的でない可能性があり、また、既存市場においても当社グループの店舗のコンセプトの人氣に陰りが生じる可能性があります。さらに、新規店舗が成功しない可能性もあり、1店舗当たり売上高を従前のように維持できない可能性もあります。

加えて、計画どおりの費用対効果で新規出店数を達成できない可能性があります。新規出店の遅延又は失敗は当社グループの成長戦略及び業績予測に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (8) 不動産の賃借に関するリスク

当社グループの出店立地条件及び店舗の特徴は、幹線道路に沿った郊外型が中心であり、また店舗規模については、当社グループの店舗運営上の効率性を踏まえ、客席数が概ね200席程度の大規模店舗が出店の中心となっております。このため、店舗建設にあたっては駐車場を含む十分なスペースの確保が必要条件となっております。また、当社グループの店舗は借地又は賃借用の建物を使用しております。そのため、当社グループが事業を継続する上では、これらの場所を好条件で賃借し続けることができるか否かに影響を受けます。

新規店舗及び既存店舗において賃料の大幅な増加がある場合、当社グループの運営コストは増加します。加えて、当社グループがより好条件の立地において賃貸借契約を締結し、維持し又は更新することができるかは、賃貸人が賃貸借期間の終了時に更新に合意するか否か等、賃貸人に関するリスクにさらされており、当該リスクが顕在化した場合、当該立地において賃貸借契約を維持できず、移転を余儀なくされる可能性があります。さらに、出店場所を新たに検討する際において、他のレストランその他の潜在的な賃借人との競合が生じた場合、賃料等のコストが増加する可能性があり、仮にかかるコストをかけることができなかった場合には魅力的な機会を失う可能性があります。また、このようなコストの増加は、一般的には都市部においてより高額となる可能性があります。また、当社グループは、賃貸借終了や採算性等を理由に閉店を余儀なくされた場合、資産の処分による損失その他関連する損失を被る可能性があります。さらに、賃借先である家主の破産等が発生した場合には、敷金及び保証金、建設協力金の回収不能が生ずる可能性があり、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(9) 自然災害等の予期できない事象に関するリスク

当社グループは、全国に店舗を配置しており、当社グループが事業を展開する地域において、大規模な地震や洪水、台風、感染症の大流行等の自然災害、又は大惨事、社会・政治的な事件若しくは動乱が発生した場合、原材料の調達への阻害、本社機能の停止、店舗の損壊、顧客の外出離れ等の悪影響をもたらすことから、当社グループの事業、財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

上記自然災害等により影響を受ける地域では日常生活が打撃を受け、その結果、当社グループの店舗において機会損失が生じ、また、当社グループの本社、店舗及び設備を含む資産、又は材料が運搬される物流施設が損傷する可能性や、水道、電気、ガス等のライフラインの利用が制限され、当社グループの店舗運営が停止する可能性があります。さらに、当社グループの仕入先が同様の状況に陥り、その結果、サプライ・チェーンが寸断される可能性があります。また、感染症の流行も、顧客の外出傾向及び当社グループの従業員の労働能力の双方に悪影響を及ぼす可能性があります。当社グループの店舗運営コストの大部分は、固定費及び準固定費であるため、上記要因による売上の減少は営業利益を減少させ、営業損失につながる可能性があります。当社グループが加入する災害保険は回復に要するコストをカバーするのに十分でない可能性があります。

(10) 経営陣への依存及び有能な店長の確保に関するリスク

当社グループは、当社グループの戦略決定、事業運営、事業機会の特定、潜在的なリスクへの対応及び当社グループの取引関係の管理に貢献してきた経営陣に依存しております。当該経営陣がビジネス、経済、健康、家庭その他の理由から当社グループ事業から離脱する場合、当社グループは有能な代替的人材を迅速に確保することができないか、又は同水準のコストで確保できない可能性があり、これにより当社グループの事業は悪影響を受ける可能性があります。

さらに、当社グループの事業運営においては、魅力的な職場環境を提供すること等によって十分な人数の店長を確保することが重要であります。店長は、各店舗の従業員の勤務スケジュールの決定に加え、各店舗の鮮魚その他の生鮮食材及び店舗用品の必要量を判断する責任者となっており、その結果、販売コスト及び人件費に係る直接の管理を通じて店舗運営費を管理することが可能になっています。当社グループは、これらの職位を全うすることのできる必要な技術及び経験を有する有能な人材の数を十分に確保できない可能性があります。こうした有能な人材確保市場における競合関係により、当社グループはより高額の給料を支払い、また、より充実した福利厚生を提供することが求められる可能性があります。有能な人材の採用及び雇用ができない場合は、離職者数ないし人件費の増加につながる可能性があります。また、当社グループのサービスの質を落とす可能性があり、これらはいずれも当社グループの事業に悪影響を及ぼす可能性があります。また、こうした場合は、計画した新規出店の遅延をもたらす可能性もあります。

(11) パートタイマー及びアルバイトの人材確保・労務管理に関するリスク

当社グループは、多くのパートタイマー等を雇用しており、かかるパートタイマー等の採用・雇用維持は店舗運営コストを低く維持する戦略の重要な構成要素となっております。そのため、当社グループは店舗運営においてパートタイマー等に大きく依存しております。近年は、少子高齢化及び人口減少により、一般的に労働者への需要が増大し、パートタイマー等の賃金が上昇する傾向が見られ、それにより当社グループは既存の店舗及び新規店舗において十分な従業員を確保することが難しくなる可能性があります。その結果、当社グループの労務関連コストが増加し、店舗運営が停止若しくは縮小し、又は費用対効果の面で十分な従業員を配置することができずまで新規出店の計画を中止せざるを得ない可能性があります。これらの要因は、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

さらに、近時の労働関連規制においては、有期雇用や、正社員とパートタイマー等とで異なる労働条件を提示することが可能となる範囲が制限される傾向にあり、その結果、パートタイマー等を雇用する使用者において、人件費の増加が生じています。労働者及び雇用関係に関する厳格な規制は、費用対効果を確保しつつ十分な人数の店舗従業員を雇用することができなくなる可能性があります。また、最低賃金、残業時間その他の労働条件、介護休業、健康保険、雇用保険その他の保険等の要素を含む正社員及びパートタイマーに係る規制並びにこれらの労務関連の事項に関するその他の法律の将来的な改正も、かかるコストの増加につながる可能性があります。また、労働関連規制の違反が発生した場合、当社グループは、規制当局による業務改善命令に服する可能性があり、従業員からの請求や法令遵守関連の費用又は損害を被る可能性があります。

(12) 情報通信システムに関するリスク

当社グループは、事業運営全般にわたり、サプライ・チェーンの管理、受付システム、タッチパネル注文、注文及びレーン上の管理並びに廃棄の管理等において、情報通信システムに大きく依存しております。また、当社グループは2015年2月に店舗の予約、待ち時間の確認、テイクアウトの注文等の機能を備えたスマートフォン向けのスローアプリを導入しました。そのため、当社グループが事業全体を効果的に管理し、メニュー品の調理、配送及び販売を相互に効果的に連携するためには、これらのシステムの信頼性及び能力が非常に重要となります。これらのシステムが効果的に稼働しない場合、アップグレード又は代替のシステムへの移行に問題が発生した場合、サイバー攻撃の結果としてこれらのシステムのセキュリティに重大なネットワーク侵害があった場合、又はそれ以外の原因により継続的かつ安全なオンライン・プラットフォームを維持することができない場合には、顧客サービスに遅延が生じ、当社グループの経営の効率が下がり、問題を改善するために多額の設備投資が必要となり、又は当社グループの評判を毀損する風評が生じる可能性があります。

かかるシステムの維持において、運営面でアプリケーション・サービス・プロバイダに委託しており、また、当社グループのデータ管理のためにクラウド・サービス・プロバイダに委託しております。アプリケーション・サービス・プロバイダ又はクラウド・サービス・プロバイダのミス等により、個人情報及び秘密情報の漏洩又はその他のセキュリティ違反及び当社グループのシステムの混乱が生じる可能性があります。また、アプリケーション・サービス・プロバイダ又はクラウド・サービス・プロバイダが何かの理由で運営を停止することにより、当社グループの運営が妨げられるリスクが存在します。さらに、当社グループの競合他社がより効果的な情報通信システムを開発し、それによって競合他社が顧客にとってより魅力的となる又はその店舗若しくは事業運営が強化される可能性があります。

#### (13) インターネット等による風評被害に伴うリスク

当社グループが保有する商標等の不正利用、商品への異物混入や苦情等、インターネット上での様々な書き込みにより風評被害が発生・拡散した場合、その内容の正確性にかかわらず、当社グループの事業、財政状態、業績、ブランドイメージ及び社会的信用に影響を及ぼす可能性があります。また、従業員又は第三者が関与する不適切行為その他の事故によってもブランドイメージ及び社会的信用は損なわれる可能性があります。

風評被害は、違法、不公平又は一貫性のない従業員の行為の申立て、従業員の不満、病気、傷害、メディア報道又はインターネット若しくはSNSサイトへの不適切な書き込み、犯罪行為、データプライバシー侵害、内部統制の不備、又は当社グループの従業員若しくは同一若しくは類似の業界における他社の従業員が関与するスキャンダルによって発生する可能性があります。申立てや苦情が認められるか否かにかかわらず、当社グループの店舗、競合他社の店舗、回転寿司市場又はより広範な日本の食品サービス業界に関する好意的ではない評判は、当社グループの全店舗に関する信用性に悪影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループ又はその業界に関する風評(食の安全、食品に関する政府若しくは業界団体の調査結果、魚の乱獲に関する環境問題又は当社グループの店舗における業務上の問題に関するものを含みます。)は、当社グループの評判を毀損し、当社グループの集客及び売上に悪影響を及ぼし、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (14) 海外事業の展開に伴うリスク

当社グループは「世界中のお客様に、うまいすしを届けたい。」を掲げ、海外戦略を具体的に推進するため、韓国、台湾、シンガポール、香港、タイ、中国大陸において第8期連結会計年度末現在89店舗を運営しております。これら海外の店舗における売上収益は、当社グループの第8期連結会計年度の売上収益合計の約14%です。また、当社グループは、他のアジアを中心とする国外市場等へと海外事業を拡大させる可能性を検討しております。

海外での店舗運営の実績が限定的であることに加えて、当社グループは、海外事業の運営全般において、消費者の嗜好、価格意識、外食の性向及び消費傾向の相違、ブランド認知度の低さ、地元の店舗での外食等の他の選択肢との競合、消費動向又は原材料費、流通費及び人件費に影響を及ぼす現地の経済状況の変化、材料費及び外国為替相場の変動、戦争行為、テロ攻撃、伝染病の大流行、政変及び当社グループがコントロールできないその他の事由、当該市場における当社グループの経営能力又は事業を行うコストに影響を及ぼす現地の法律上及び規制上の要件の変更等の多くの課題等に直面する可能性があります。これらの課題等は、当社グループの財政状態、経営成績及び成長戦略に悪影響を及ぼす可能性があります。

また、新型コロナウイルスの感染状況が進出エリア毎に異なると共に各国政府の対応状況も異なる状況であったことから、その業績に与える影響についても進出エリア毎に大きく異なる状況となりました。今後海外事業の拡大に伴い、こういった事象が発生した場合には、当社グループの財政状態、経営成績及び成長戦略に重大な影響を及ぼす可能性があります。

#### (15) 訴訟その他の法的手続に伴うリスク

当社グループには、通常の業務において発生する製造物責任、契約違反、人身被害並びに労働及び雇用等に関する請求に関し、顧客、貸貸人、納入・供給業者及び従業員を含む第三者からの訴訟のリスクが存在します。当社グループに対する請求が有効であるか否か、また当社グループが最終的に責任を負うこととされるか否かにかかわらず、かかる請求があった場合には防御に費用がかかる可能性があり、また、時間と費用がかかり、結果として、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。かかる請求が当社グループが加入する保険の対象とされていない場合又は保険の担保範囲を大きく超える判決があった場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。これらの申立てから生じる風評もまた、当社グループの評判又は見通しに悪影響を及ぼし、さらに当社の経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (16) 個人情報その他の機密情報の漏洩に関するリスク

当社グループは、多数の個人の顧客から様々な情報を取得し保有しております。当社グループは、顧客情報について、個人情報の保護に関する法律に基づき、個人情報取扱事業者として、個人情報保護に係る義務等の遵守が求められております。

当社グループは、クレジットカード処理システム及び当社グループの顧客向けロイヤリティ・ポイント・システムを含むスマートフォン向けのスローアプリやウェブサイトを利用した注文システム等を通じて個人情報を定期的に収集しております。個人情報が漏洩した場合には、損害賠償請求及び行政処分等により、当社グループの評判が毀損し、多額の是正費用が必要となり、当社グループの経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

(17) 知的財産権に関するリスク

当社グループの事業の運営においては、当社グループが日本及び海外で用いる店舗名やロゴ、当社グループの店舗のデザイン等の商標、特許その他の当社グループが専有する知的財産権を活用してブランドの価値を構築し維持することが重要となります。当社グループがその知的財産権を保護することに失敗した場合、又は第三者が当社グループの知的財産権を悪用若しくは侵害し、若しくは当社グループの知的財産権が競合他社に知られ若しくは競合他社により独自に開発された場合には、当社グループのブランドの価値が損なわれる可能性があり、これにより当社グループの事業が重大な悪影響を受け、当社グループのブランドが市場で受け入れられなくなり、又はブランド価値を維持することができなくなる可能性があります。また、当社グループは、当社が事業を行う又は行おうとする分野における類似の知的財産権の先使用权者から請求を受ける可能性があります。これにより、当社グループのイメージ、ブランド又は競争力が損なわれ、当社グループが多額のペナルティ及び費用を負担することとなる可能性があります。

(18) 外国為替相場の変動に伴うリスク

当社グループの運営は外国為替相場の変動及び外国為替に係る規制の変化により影響を受けます。商社及び卸売業者等の当社グループの直接の仕入先から仕入れる生鮮食材の調達コスト等の大部分は円貨建てとなっておりますが、一部の仕入先に係る調達費用は外貨建てとなっております。これらの外貨が日本円に対して強くなる場合、また、仕入先がかかる相場変動によるコスト増を当社グループに転嫁しようとする場合、当社グループの調達コストは増加する可能性があります。かかる為替相場の変動のリスクに対処するために、当社グループは将来的にヘッジ取引その他の為替変動リスクを最小限に抑える方策を行う可能性がありますが、かかる方策を行ったとしても、外国為替相場の変動リスクを十分回避できる保証はありません。

(19) 減損会計の適用に伴うリスク

無形資産(特にブランド)及びのれんは当社グループの資産の相当な部分を占めます。当社グループのブランド及びCEILジャパン株式会社が2012年9月に行った前株式会社あきんどスシローの買収等により発生したのれんは、第8期連結会計年度末現在それぞれ53,596百万円及び30,371百万円であり、合わせて当社グループの総資産の25.3%を占めています。IFRSのもとでは、ブランド及びのれんは償却の対象とはならず、毎年及び減損の兆候があると認められた場合にはその都度、減損テストが実施されます。また、当社グループの事業資産も、帳簿価額を回収することができない可能性を示す事象や状況変化があった場合には減損テストが実施されます。

減損を計上すべきか否かの決定には、高度な判断が必要となります。特に、当該資産から利益を得る店舗の将来キャッシュ・フローの大幅な減少、法的要因又は事業環境における重大な不利な変化等の要因は減損につながる可能性があります。こうした要因について不利な変化があった場合、これらの資産の回収可能性に重大な影響を及ぼし、当社グループの財政状態及び経営成績が悪影響を受ける可能性があります。当社グループは、資産の減損の金額及び時期を正確に予測することができません。当社グループの資産の価値が減損した場合、当社グループの財政状態及び経営成績が重大な悪影響を受ける可能性があります。

(20) 多額の有利子負債及び財務制限条項への抵触に伴うリスク

当社グループは、金融機関を貸付人とする借入契約を締結し借入れを行っていると共に、社債発行による資金調達を行っております。資金調達を機動的に実施できるか否かは当社グループの事業に重要な影響を与える可能性があります。

また、当社グループが将来リファイナンスをすることができるかについては、金融市場及び資本市場並びにその時点の当社グループの財政状態より影響を受けます。当社グループが良い条件でリファイナンスすることができる保証はなく、そのことにより当社グループの財政状態及び事業運営は悪影響を受ける可能性があります。

当社グループの借入金の一部については、元本が円建ての変動金利となっているため、市場金利の変動の影響を受けます。金利政策に変更等があり、円金利が上がった場合には、当社グループの変動金利による借入れに適用される金利は上昇し、当該借入れに係る金利の支払い額はヘッジがなされない限りにおいて増加します。加えて、当社グループの長期借入れの一部は固定金利のため、市場金利の上昇は、当該借入れをリファイナンスする場合又は事業資金若しくは設備投資資金のために借入れを増加させる場合に、当社グループの金利の支払い額は増加します。

さらに、借入契約には、財務制限条項が付されており、これに抵触した場合、貸付人の請求があれば同契約上の期限の利益を失うため、直ちに債務の弁済をするための資金の確保が必要となり、当社グループの財政状態及び資金繰りに影響を及ぼす可能性があります。当社グループは、利息等の返済原資は主にキャッシュ・フローによるものと考えており、当社グループがこれらの支払いを行うことができるか否かは、当社グループの将来の業績により左右されます。当社グループに十分な資金がない場合、当社グループは、既存の借入れの全部又は一部のリファイナンス、資産の売却又は更なる金銭の借入れが必要となる可能性があります。当社グループは、これらの代案を当社グループが受入可能な条件によって行うことができず、又は全く行うことができない可能性があります。



(21) 新株予約権の行使による株式価値の希薄化に関するリスク

当社は、当社及び当社子会社の役員及び従業員に対しインセンティブ付与のため、新株予約権の発行及びストック・オプション制度を採用しております。

また、今後も優秀な人材を確保するために、ストック・オプション制度を活用していく可能性があり、現在付与している新株予約権に加えて、今後付与する新株予約権が行使された場合には、1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

(22) 法的規制に関するリスク

当社グループは、会社法、税法、労働関係法などの一般的な法令に加え、食品衛生法、景品表示法など当社グループの運営する事業に関連して国内外の様々な法的規制を受けております。これらの法的規制が強化された場合、それに対応するために新たな費用が発生することにより、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、こうした法的規制に違反した場合、当社グループの社会的信用が低下し、当社グループの事業、財政状態及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(23) 企業買収等に関するリスク

当社グループは、企業買収・業務提携・合併会社の設立等を通じて、事業の拡大及び競争力の強化を図っています。企業買収等の検討段階では、対象企業のデューデリジェンスを行い、買収や出資後の対象企業の運営について検証を行っています。しかしながら、当初に期待した効果が得られない場合、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(24) 環境課題問題に関するリスク

当社グループは、食品廃棄物、プラスチックをはじめとする容器包装リサイクル、廃棄物処理及び気候変動対策などに関する様々な環境関連法令の適用を受けています。気候変動による物理的リスクとして気温上昇による原材料魚介類の収量減・品質への影響や渇水・洪水による操業停止の可能性や、炭素税や排出取引制度によるコスト増や事業活動への制限が加えられる可能性があります。

加えて、気候変動、プラスチック容器や食料ロスなどの環境問題において、当社グループの対応が不十分と評価された場合、レピュテーションが低下し、結果として当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### 第3 【参照書類を縦覧に供している場所】

株式会社FOOD & LIFE COMPANIES 本店

(大阪府吹田市江坂町一丁目22番2号)

株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

### 第四部 【保証会社等の情報】

該当事項はありません。

「参照方式」の利用適格要件を満たしていることを示す書面

会社名 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES

代表者の役職氏名 代表取締役社長 水留 浩一

- 1 当社では1年間継続して有価証券報告書を提出しております。
- 2 当社の発行する株券は、東京証券取引所に上場されております。
- 3 当社の発行済株券は、3年平均上場時価総額が250億円以上であります。

421,615百万円

(参考)

(2020年12月30日の上場時価総額)

東京証券取引所 における最終価格		発行済株式総数		
	3,950円	×	116,049,984株	= 458,397百万円

(2021年12月30日の上場時価総額)

東京証券取引所 における最終価格		発行済株式総数		
	4,350円	×	116,069,184株	= 504,900百万円

(2022年12月30日の上場時価総額)

東京証券取引所 における最終価格		発行済株式総数		
	2,598円	×	116,069,184株	= 301,547百万円

## 事業内容の概要及び主要な経営指標等の推移

### 1 事業内容の概要（2023年9月30日現在）

当社は、持株会社として当社グループの経営方針策定・経営管理を担当しており、当社グループは、当社及び連結子会社18社で構成され、直営方式による回転すし店のチェーン展開を主たる事業としております。

当社グループの事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

#### （国内スシロー事業）

子会社である株式会社あきんどスシローが国内において、回転すし店の「スシロー」を展開しております。

#### （海外スシロー事業）

子会社である Sushiro Korea, Inc.、Sushiro Taiwan Co., Ltd.、Sushiro GH Singapore Pte. Ltd.、FOOD & LIFE COMPANIES HONG KONG LIMITED、Sushiro GH (Thailand) Ltd.、広州寿司郎餐飲有限公司、深セン寿司郎餐飲有限公司、成都寿司郎餐飲有限公司において、回転すし店の「スシロー」の海外店舗を展開しております。

#### （京樽事業）

子会社である株式会社京樽において、持ち帰りすし専門店の「京樽」及び寿司職人が寿司を提供する「回転寿司みさき」「海鮮三崎港」等を展開しております。

#### （その他）

主として子会社である株式会社 FOOD & LIFE INNOVATIONS において、寿司居酒屋の「鮪・酒・肴 杉玉」を展開しております。

## 2 主要な経営指標等の推移

### (1) 連結経営指標等

回次	国際会計基準				
	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
決算年月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月
売上収益 (百万円)	174,883	199,088	204,957	240,804	281,301
営業利益 (百万円)	11,718	14,546	12,061	22,901	10,123
税引前利益 (百万円)	11,508	14,363	10,536	21,584	7,564
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (百万円)	7,991	9,959	6,457	13,185	3,607
親会社の所有者に 帰属する当期包括利益 (百万円)	7,979	9,523	6,524	14,091	5,700
親会社の所有者に 帰属する持分 (百万円)	40,835	47,367	50,908	63,569	65,117
資産合計 (百万円)	132,062	136,349	237,265	296,001	331,982
1株当たり親会社所有者 帰属持分 (円)	359.00	407.63	436.63	542.88	554.51
基本的1株当たり 当期利益 (円)	69.23	85.81	55.64	113.61	31.16
希薄化後1株当たり 当期利益 (円)	68.39	85.65	55.48	113.05	30.98
親会社所有者帰属持分 比率 (%)	31.5	34.7	21.4	21.3	19.3
親会社所有者帰属持分 当期利益率 (%)	21.9	22.4	13.2	23.2	5.7
株価収益率 (倍)	24.30	21.18	47.59	45.42	71.36
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	14,744	17,309	23,923	31,679	29,514
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△6,398	△10,682	△14,879	△17,286	△19,647
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△4,516	△8,578	△6,724	2,107	10,539
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	12,386	10,341	12,665	29,367	50,637
従業員数 (人)	1,632	2,220	2,863	4,577	6,088
(外、平均臨時雇用者数)	(17,523)	(18,848)	(18,857)	(21,035)	(21,961)

(注) 1. 上記指標は、国際会計基準(IFRS)により作成しております。

2. 百万円未満を四捨五入して記載しております。

3. 臨時雇用者数は、パートタイマー及びアルバイトの人数であり、1日8時間で換算した年間の平均人員を( )内に外数で記載しております。

4. 当社は、2020年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。1株当たり親会社所有者帰属持分、基本的1株当たり当期利益及び希薄化後1株当たり当期利益については、第4期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、当該株式分割後の発行済株式数により算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	日本基準				
	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
決算年月	2018年9月	2019年9月	2020年9月	2021年9月	2022年9月
営業収益 (百万円)	4,987	9,858	5,909	11,130	17,819
経常利益 (百万円)	3,779	7,169	1,907	6,128	5,335
当期純利益又は当期純損失 (△) (百万円)	3,036	5,747	△415	6,026	8,948
資本金 (百万円)	100	100	100	100	100
発行済株式総数 (株)	29,012,496	29,012,496	116,049,984	116,069,184	116,069,184
純資産額 (百万円)	13,681	17,785	14,936	19,548	24,365
総資産額 (百万円)	59,975	74,283	78,510	104,019	143,603
1株当たり純資産額 (円)	125.20	152.73	126.65	163.62	202.21
1株当たり配当額 (円)	85.00	90.00	15.00	22.50	22.50
(うち1株当たり中間配当額)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	26.30	49.52	△3.57	51.92	77.31
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	25.98	49.43	—	51.67	76.85
自己資本比率 (%)	24.2	23.9	18.7	18.3	16.3
自己資本利益率 (%)	25.5	35.6	—	35.8	42.2
株価収益率 (倍)	63.96	36.70	—	99.38	28.77
配当性向 (%)	80.8	45.4	—	43.3	29.1
従業員数 (人)	52	169	190	214	236
(外、平均臨時雇用者数)	(5)	(15)	(13)	(14)	(15)
株主総利回り (%)	188.8	206.2	299.9	580.7	257.9
(比較指標：配当込み TOPIX)	(110.8)	(99.3)	(104.2)	(132.9)	(123.4)
最高株価 (円)	7,010	7,880	2,800 (10,310)	5,480	5,320
最低株価 (円)	3,475	5,530	1,250 (5,190)	2,656	2,060

- (注) 1. 第6期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
2. 第6期の自己資本利益率については、当期純損失が計上されているため、記載しておりません。
3. 第6期の株価収益率については、当期純損失のため、記載しておりません。
4. 第6期の配当性向については、当期純損失のため記載しておりません。
5. 百万円未満を四捨五入して記載しております。
6. 臨時雇用者数は、パートタイマー及びアルバイトの人数であり、1日8時間で換算した年間の平均人員を( )内に外数で記載しております。

7. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第一部、2022年4月4日より東京証券取引所プライム市場におけるものであります。なお、当社は、2020年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。第6期の株価については、株式分割後の最高株価及び最低株価を記載しており、( )内に株式分割前の最高株価及び最低株価を記載しております。
8. 第4期において、「営業外収益」の「受取配当金」に含めていた子会社からの配当金については、第5期より「営業収益」として表示することとしました。この表示方法の変更を反映するため、「提出会社の経営指標等」の第4期の金額についても組替を行っております。
9. 当社は、2020年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施しております。1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第4期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、当該株式分割後の発行済株式数により算定しております。

## 2023年9月期連結会計年度（2022年10月1日から2023年9月30日まで）の業績の概要

2023年11月10日に公表した2023年9月期連結会計年度（2022年10月1日から2023年9月30日まで）の連結財務諸表は以下のとおりであります。

ただし、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査法人の監査を終了していないため、監査報告書は受領しておりません。連結財務諸表は国際会計基準（IFRS）を適用しています。

なお、連結財務諸表の金額については百万円単位とし、単位未満の端数を四捨五入して表示しております。

連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当連結会計年度 (2023年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	50,637	51,228
営業債権及びその他の債権	11,397	12,457
棚卸資産	3,534	3,965
その他の金融資産	457	1,389
その他の流動資産	1,967	2,363
流動資産合計	67,993	71,401
非流動資産		
有形固定資産	162,490	176,615
のれん	30,371	30,371
無形資産	55,968	56,332
持分法で会計処理されている投資	178	52
敷金及び保証金	13,420	14,257
その他の金融資産	541	417
繰延税金資産	191	553
その他の非流動資産	830	682
非流動資産合計	263,990	279,280
資産合計	331,982	350,682
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	27,435	30,080
社債及び借入金	4,009	24,007
未払法人所得税	189	1,070
リース負債	15,650	17,901
その他の金融負債	963	1,362
引当金	2,347	3,136
その他の流動負債	3,473	3,935
流動負債合計	54,067	81,491
非流動負債		
営業債務及びその他の債務	23	23
社債及び借入金	88,923	64,952
リース負債	105,624	114,689
その他の金融負債	100	111
引当金	4,012	4,363
繰延税金負債	14,092	13,307
その他の非流動負債	5	—
非流動負債合計	212,781	197,446
負債合計	266,848	278,937
資本		
資本金	100	100
資本剰余金	15,692	15,676
利益剰余金	47,579	52,875
自己株式	△1,894	△1,840
その他の資本の構成要素	3,639	4,544
親会社の所有者に帰属する持分合計	65,117	71,356
非支配持分	18	388
資本合計	65,134	71,744
負債及び資本合計	331,982	350,682



## (2) 連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
売上収益	281,301	301,747
売上原価	△130,287	△134,229
売上総利益	151,014	167,518
販売費及び一般管理費	△138,025	△152,437
その他の収益	4,558	1,313
その他の費用	△7,423	△5,393
営業利益	10,123	11,001
金融収益	499	325
金融費用	△1,003	△1,514
持分法による投資損益 (△は損失)	△2,056	52
税引前利益	7,564	9,864
法人所得税費用	△3,943	△1,605
当期利益	3,621	8,259
当期利益の帰属		
親会社の所有者	3,607	7,899
非支配持分	14	360
当期利益	3,621	8,259
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益 (円)	31.16	68.28
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	30.98	67.76

## (3) 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
当期利益	3,621	8,259
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて測定する 金融資産の公正価値の純変動	△96	△81
純損益に振り替えられることのない 項目合計	△96	△81
純損益に振り替えられる可能性のある 項目		
在外営業活動体の換算差額	2,188	530
純損益に振り替えられる可能性のある 項目合計	2,188	530
税引後その他の包括利益	2,092	449
当期包括利益	5,713	8,708
当期包括利益の帰属		
親会社の所有者	5,700	8,337
非支配持分	13	370
当期包括利益	5,713	8,708

## (4) 連結持分変動計算書

(単位：百万円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の 構成要素	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
2021年10月1日時点の残高	100	15,755	46,584	△0	1,130	63,569	4	63,573
当期利益			3,607			3,607	14	3,621
その他の包括利益					2,092	2,092	△1	2,092
当期包括利益合計	—	—	3,607	—	2,092	5,700	13	5,713
自己株式の処分		△42		106	△13	50		50
自己株式の取得		△20		△2,000		△2,020		△2,020
株式に基づく報酬取引					430	430		430
配当金			△2,612			△2,612		△2,612
所有者との取引額合計	—	△62	△2,612	△1,894	417	△4,151	—	△4,151
2022年9月30日時点の残高	100	15,692	47,579	△1,894	3,639	65,117	18	65,134
当期利益			7,899			7,899	360	8,259
その他の包括利益					439	439	10	449
当期包括利益合計	—	—	7,899	—	439	8,337	370	8,708
自己株式の処分		△27		55	△8	19		19
自己株式の取得				△0		△0		△0
新株予約権の失効		11			△11	—		—
株式に基づく報酬取引					485	485		485
配当金			△2,603			△2,603		△2,603
所有者との取引額合計	—	△16	△2,603	55	466	△2,098	—	△2,098
2023年9月30日時点の残高	100	15,676	52,875	△1,840	4,544	71,356	388	71,744

## (5) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益	7,564	9,864
減価償却費及び償却費	22,902	26,586
減損損失	6,821	4,975
金融収益	△499	△325
金融費用	999	1,498
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△992	658
敷金及び保証金の家賃相殺額	260	282
持分法による投資損益 (△は益)	2,056	△52
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	6,025	△2,295
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,339	△389
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	756	2,580
その他	△1,339	914
小計	43,213	44,298
利息及び配当金の受取額	11	102
利息の支払額	△935	△1,428
法人所得税の支払額	△12,775	△3,026
法人所得税の還付額	—	2,414
営業活動によるキャッシュ・フロー	29,514	42,360
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△16,093	△15,755
有形固定資産の売却による収入	0	655
無形資産の取得による支出	△1,841	△957
定期預金の預入による支出	—	△1,413
定期預金の払戻による収入	—	796
敷金及び保証金の差し入れによる支出	△1,500	△1,733
投資有価証券の取得による支出	△200	—
持分法で会計処理されている投資の取得による支出	△255	—
その他	242	519
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19,647	△17,888
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	34,000	—
長期借入金の返済による支出	△4,009	△4,009
リース負債の返済による支出	△14,905	△17,297
支払手数料の支払による支出	△2	△6
自己株式の取得による支出	△2,000	△0
新株予約権の行使による収入	46	19
配当金の支払額	△2,609	△2,598
その他	18	15
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,539	△23,876
現金及び現金同等物の増加額	20,407	596
現金及び現金同等物の期首残高	29,367	50,637
現金及び現金同等物に係る換算差額	863	△4
現金及び現金同等物の期末残高	50,637	51,228

- (6) 連結財務諸表に関する注記事項  
 (継続企業の前提に関する注記)  
 該当事項はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、主に事業別のセグメントから構成されております。

各報告セグメントに含まれる主要ブランドは以下のとおりであります。

国内スシロー事業：国内で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

海外スシロー事業：海外で展開する「スシロー」及びテイクアウト専門店

京樽事業：株式会社京樽が運営する全ブランド(主要ブランド「京樽」・「回転寿司みさき」・「海鮮三崎港」)

その他事業：株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS が運営する全ブランド(主要ブランド「杉玉」)

(2) 報告セグメント売上収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる売上収益及び業績は以下のとおりです。

前連結会計年度(自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント(注) 2				合計	調整額合計 (注) 3	連結合計
	国内スシロー事業	海外スシロー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	217,990	38,298	21,072	3,941	281,301	—	281,301
セグメント間収益	68	—	339	—	407	△407	—
計	218,058	38,298	21,411	3,941	281,707	△407	281,301
セグメント利益又は損失(△は損失) (注) 1	8,828	2,191	△3,023	△593	7,403	2,720	10,123
その他の項目							
減価償却費及び償却費	15,923	4,467	1,659	441	22,490	412	22,902
減損損失	4,170	565	1,881	203	6,821	—	6,821

(注) 1. セグメント利益又は損失は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 京樽事業の減損損失1,881百万円には、のれんの減損損失170百万円が含まれております

3. セグメント利益又は損失の調整額2,720百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

当連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額合計 (注)2	連結合計
	国内シロ ー事業	海外シロ ー事業	京樽事業	その他事業			
売上収益							
外部収益	205,906	66,132	24,329	5,380	301,747	—	301,747
セグメント間収益	—	—	117	44	161	△161	—
計	205,906	66,132	24,446	5,423	301,908	△161	301,747
セグメント利益又は 損失(△は損失) (注)1	4,881	5,293	△653	△380	9,140	1,861	11,001
その他の項目							
減価償却費及び償 却費	16,070	7,571	1,659	642	25,942	645	26,586
減損損失	3,904	337	382	353	4,975	—	4,975

(注) 1. セグメント利益又は損失は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. セグメント利益又は損失の調整額1,861百万円には、主にセグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社損益が含まれております。

(3) 製品及びサービス別に関する情報

当社グループは単一の製品及びサービスを販売しているため、製品及びサービス別の売上収益の記載を省略しております。

(4) 地域別に関する情報

外部顧客からの国内売上収益が連結損益計算書の売上収益の大部分を占めるため、地域別の売上収益の記載を省略しております。

また、日本国内の非流動資産の帳簿価額は、連結財政状態計算書の非流動資産の大部分を占めるため、地域別の非流動資産の記載を省略しております。

(5) 主要な顧客に関する情報

当社グループの売上収益の10%以上を占める単一の外部顧客は存在しないため、記載を省略しております。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費の内訳は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
従業員給付費用	77,755	83,619
減価償却費及び償却費	22,802	26,524
水道光熱費	7,123	8,465
その他	30,345	33,829
合計	138,025	152,437

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年10月1日 至 2022年9月30日)	当連結会計年度 (自 2022年10月1日 至 2023年9月30日)
親会社の普通株主に帰属する 当期利益(百万円)	3,607	7,899
基本的1株当たり当期利益の計算に 使用する普通株主に係る当期利益 (百万円)	3,607	7,899
希薄化後1株当たり当期利益の計算 に使用する普通株主に係る当期利益 (百万円)	3,607	7,899
基本的期中平均普通株式数(株)	115,730,819	115,681,282
希薄化後1株当たり当期利益の計算 に用いられた普通株式増加数(株)	695,326	888,514
希薄化後の期中平均普通株式数(株)	116,426,145	116,569,796
基本的1株当たり当期利益(円)	31.16	68.28
希薄化後1株当たり当期利益(円)	30.98	67.76
希薄化効果を有しないため、希薄化 後1株当たり当期利益の算定に含め なかった潜在株式の概要	新株予約権2種類 (普通株式120千株)	新株予約権3種類 (普通株式228千株)

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 第9期事業年度（2022年10月1日から2023年9月30日まで）の業績の概要

2023年11月22日開催の取締役会で承認した第9期事業年度（2022年10月1日から2023年9月30日まで）の計算書類は以下のとおりであります。

ただし、この計算書類は会社法の規定に基づくものであり、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成した金融商品取引法の規定により提出される財務書類ではなく、また、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査法人の監査はなされておられません。

なお、計算書類の金額については百万円単位とし、単位未満の端数を四捨五入して表示しております。



## 貸借対照表

(2023年9月30日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	64,635	流動負債	43,115
現金及び預金	33,116	買掛金	15,083
売掛金	12	1年以内償還予定社債	20,000
食材及び貯蔵品	1,088	1年以内返済予定の長期借入金	4,009
関係会社短期貸付金	1,519	リース債務	2
前払費用	410	未払金	2,627
未収入金	26,957	未払費用	50
その他	1,533	未払法人税等	54
固定資産	76,562	預り金	902
有形固定資産	67	賞与引当金	343
建物	31	役員賞与引当金	38
機械装置	10	その他	8
工具器具備品	24	固定負債	72,415
その他	1	社債	10,000
無形固定資産	26,557	長期借入金	54,968
ソフトウェア	1,938	リース債務	6
商標権	24,118	資産除去債務	24
その他	501	繰延税金負債	7,402
投資その他の資産	49,938	その他	15
投資有価証券	114	負債合計	115,530
関係会社株式	35,362	(純資産の部)	
関係会社長期貸付金	19,414	株主資本	24,226
長期前払費用	167	資本金	100
その他	56	資本剰余金	11,794
貸倒引当金	△5,175	資本準備金	1,747
資産合計	141,196	その他資本剰余金	10,048
		利益剰余金	14,172
		その他利益剰余金	14,172
		別途積立金	94
		繰越利益剰余金	14,078
		自己株式	△1,840
		新株予約権	1,440
		純資産合計	25,666
		負債・純資産合計	141,196

損益計算書  
(2022年10月1日から  
2023年9月30日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営業収益		17,137
営業費用		14,097
売上原価		1
販売費及び一般管理費		14,096
営業利益		3,041
営業外収益		
受取利息	209	
受取配当金	1	
為替差益	217	
その他	139	565
営業外費用		
支払利息	237	
貸倒引当金繰入額	915	
その他	6	1,158
経常利益		2,448
特別損失		
関係会社株式評価損	200	
投資有価証券評価損	158	358
税引前当期純利益		2,090
法人税、住民税及び事業税	△214	
法人税等調整額	△1,093	△1,307
当期純利益		3,398

## 株主資本等変動計算書

(2022年10月1日から  
2023年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本								
	資 本 金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金			自 己 株 式	株 主 資 本 合 計
		資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	資 本 剰 余 金 合 計	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計		
					別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当 期 首 残 高	100	1,747	10,070	11,817	94	13,274	13,368	△1,894	23,391
当 期 変 動 額									
当 期 純 利 益						3,398	3,398		3,398
自 己 株 式 の 処 分			△27	△27				55	28
自 己 株 式 の 取 得								△0	△0
配 当 金						△2,603	△2,603		△2,603
そ の 他			4	4		9	9		13
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当 期 変 動 額 合 計	-	-	△23	△23	-	804	804	55	836
当 期 末 残 高	100	1,747	10,048	11,794	94	14,078	14,172	△1,840	24,226

	新 株 予 約 権	純 資 産 計
当 期 首 残 高	974	24,365
当 期 変 動 額		
当 期 純 利 益		3,398
自 己 株 式 の 処 分		28
自 己 株 式 の 取 得		△0
配 当 金		△2,603
そ の 他		13
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	466	466
当 期 変 動 額 合 計	466	1,302
当 期 末 残 高	1,440	25,666

## 個別注記表

重要な会計方針に係る事項に関する注記

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- ① 食材 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。
- ② 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）を採用しております。

### 2. 固定資産の減価償却方法

#### (1) 有形固定資産

定率法によっております。

ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 5～15年

機械装置 8年

工具器具備品 2～20年

#### (2) 無形固定資産

定額法によっております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

#### 4. 収益及び費用の計上基準

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

- ステップ1：顧客との契約を識別する
- ステップ2：契約における履行義務を識別する
- ステップ3：取引価格を算定する
- ステップ4：取引価格を契約における履行義務に配分する
- ステップ5：履行義務の充足時に（又は充足するにつれて）収益を認識する

当社の収益は、主に子会社からの配当金、ロイヤリティ収入、役務提供の成果としての収入によっております。

配当金は、配当金の効力発生日をもって収益を認識しております。

ロイヤリティ収入は、契約相手先の売上等を算定基礎として測定し、その発生時点を考慮して履行義務の充足を判断し、その発生に応じて収益を認識しております。

役務提供の成果としての収入は、子会社に対して業務支援を行っており、役務提供を実施した時点で収益を認識しております。

#### 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。
- (2) 記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。

#### 収益認識に関する注記

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、個別注記表「重要な会計方針に係る事項に関する注記」に記載のとおりです。

#### 会計上の見積りに関する注記

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼす可能性があるものは、次のとおりです。

##### (関係会社投融資の評価)

- (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額
  - 関係会社株式 35,362 百万円
  - 関係会社短期貸付金 1,519 百万円
  - 関係会社長期貸付金 19,414 百万円
  - 関係会社株式評価損 200 百万円
  - 貸倒引当金繰入額 915 百万円
- (2) 会計上の見積りの内容について計算書類利用者の理解に資するその他の情報  
関係会社株式の評価にあたっては、対象会社の財政状態の悪化により実質価額が著しく低下した場合には、回復可能性が十分な証拠によって裏付けられる場合を除いて、減損処理を行うこととしております。  
関係会社に対する貸付金の評価にあたっては、債務者の財政状態、経営成績等に応じて、一般債権、貸倒懸念債権、破産更生債権等の三つに区分した上で、貸倒懸念債権、破産更生債権等については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を貸倒引当金として計上することとしております。  
関係会社株式の評価損の認識の要否及び関係会社貸付金の回収可能性の検討に際しては、各関係会社の純資産額等の財務内容を使用しております。

貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額	105 百万円
2. 関係会社に対する金銭債権、債務は次のとおりであります。(区分表示したものを除く)	
① 短期金銭債権	26,607 百万円
② 短期金銭債務	2,321 百万円
3. 取締役に対する金銭債務は次のとおりであります。	
長期金銭債務	15 百万円

損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
営業収益	16,819 百万円
営業取引以外の取引高	202 百万円

株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度の末日における自己株式の種類及び数	
普通株式	382,884 株

税効果会計に関する注記

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	百万円
関係会社株式	6,893
貸倒引当金	1,764
賞与引当金	90
繰越欠損金	138
その他	801
繰延税金資産小計	9,687
評価性引当額	△8,866
繰延税金資産合計	821
繰延税金負債	
商標権	△8,222
その他	△1
繰延税金負債合計	△8,223
繰延税金負債純額	△7,402

2. 当社は、当事業年度から、グループ通算制度を適用しております。また、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日)に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

関連当事者との取引に関する注記  
子会社及び関連会社等

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との 関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
子会社	株式会社あきんどスシロー	所有 直接100.0%	役務の提供 食材等の売上 配当金の受取 資金の貸付 資金の預り 債務の被保証 グループ通算 制度 役員の兼任	役務提供 (注) 1	2,838	未収入金	1,490
				食材等の売上 (注) 2	92,722	未収入金	17,565
				ロイヤリティ 収入 (注) 2	6,170	未収入金	2,399
				配当金の受取 (注) 3	4,120	—	—
				貸付金の回収 (注) 4	1,200	関係会社 短期貸付金	1,200
				貸付金の回収 (注) 4	1,200	関係会社 長期貸付金	5,800
				利息の受取 (注) 4	39	未収利息	0
				資金の預入及 び預り (注) 5	3,990	預り金	545
				債務の被保証 (注) 6	39,627	—	—
法人税の受取 (注) 7	2,269	未収入金	697				
子会社	株式会社FOOD & LIFE INNOVATIONS	所有 直接100.0%	役務の提供 資金の貸付 資金の預り 債務の被保証 グループ通算 制度 役員の兼任	資金の貸付 (注) 4	—	関係会社 長期貸付金	3,270
				資金の回収 (注) 4	—		
				利息の受取 (注) 4	33	未収利息	20
				資金の預入及 び預り (注) 5	259	預り金	296
				債務の被保証 (注) 6	39,627	—	—
				法人税の支払 (注) 7	108	未払金	58

種 類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との 関 係	取 引 内 容	取引金額 (百万円)	科 目	期 末 残 高 (百万円)
子会社	株式会社京樽	所有 直接100.0%	役員 の提供 資金の貸付 資金の預入 債務の被保証 グループ通算 制度 費用の立替 役員の兼任	資金の貸付 (注) 4	500	関係会社 長期貸付金	5,540
				資金の回収 (注) 4	—		
				利息の受取 (注) 4	52	未 収 利 息	23
				資金の預入及 び預り (注) 5	655	預 け 金	678
				債務の被保証 (注) 6	39,627	—	—
				法人税の受取 (注) 7	497	未 払 金	348
				食材費用等の 立替 (注) 8	592	立 替 金	22
子会社	Sushiro Taiwan Co., Ltd.	所有 直接100.0%	役員 の兼任 資金の貸付	資金の貸付 (注) 4	706	関係会社 長期貸付金	1,276
				資金の回収 (注) 4	246		
子会社	Sushiro GH (Thailand) Ltd.	所有 直接49.0%	役員 の兼任 資金の貸付	資金の貸付 (注) 4	—	関係会社 長期貸付金	3,306
				資金の回収 (注) 4	—		
				利息の受取 (注) 4	49	未 収 利 息	13
子会社	PT. Indonesia Sushiro Restaurants	所有 直接99.97% 間接 0.03%	役員 の兼任 増資の引受	設立出資	309	—	—
子会社	FOOD & LIFE COMPANIES USA, Corp.	所有 直接100.0%	役員 の兼任 増資の引受	設立出資	435	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 役員提供等に対する費用等を勘案して合理的に価格を決定しております。  
2. 同社への売上及びロイヤリティ収入については、市場価格を勘案して一般取引条件と同様に決定しております。  
3. 配当金については、剰余金の分配可能額を基礎として合理的に決定しております。  
4. 資金の貸付については、利率は市場金利を勘案して決定しております。なお、担保は受け入れておりません。  
5. 資金の預入及び預りは、子会社の資金需要にあわせて資金を預け入れ又は預かっており、市場金利を勘案して利率を決定しております。また、取引金額は期中の平均残高を記載しております。  
6. 当社が締結した金銭消費貸借契約上の債務（借入金）について債務保証を受けております。なお、保証料の支払は行っておりません。  
7. 連結納税制度による、連結法人税の受取額又は支払額とグループ通算制度による通算税効果額の未払額であります。  
8. 取引金額は期中の平均残高を記載しております。  
9. 子会社への貸倒懸念債権に対し、5,175百万円の貸倒引当金を計上しております。また、当事業年度においては915百万円の貸倒引当金繰入額を計上しております。



1 株当たり情報に関する注記

1. 1株当たり純資産額	209円41銭
2. 1株当たり当期純利益	29円37銭

重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

追加情報

(無担保普通社債の発行)

当社は、2023年9月28日開催の取締役会において、以下のとおり国内無担保普通社債の発行に関する包括決議を行いました。

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| (1) 募集社債の総額の上限 | 210億円（この範囲で複数回の発行が可能）    |
| (2) 募集社債の償還期限  | 10年以内                    |
| (3) 募集社債の利率の上限 | 年率2.5%                   |
| (4) 募集社債の払込金額  | 募集社債の金額100円につき金100円以上    |
| (5) 発行時期       | 2023年11月1日から2024年3月31日まで |